



第十一課

悲しみの復権

単語

我が → 自分の → 我が身、我が国、我が家

不運 → 幸運

恨む：① 人から不利益を受けた，としてその人に対する不満や不快感を心に抱き続ける。「招待さ

れなかったのを－・んでいた」②（「憾む」とも書く）思い通り，あるいは理想通りにならない

ことを残念に思う。「自らの不勉強を－・む」③ 不満や嘆きを人に訴える。うらみ言を言う。

→ 憎む：① 嫌だと思う。不快に思う。また，よくないこと，あってはならないこととして，許

しがたく思う。「戦争を－・む」② ねたむ。うらやましく思う。③ 非難する。反対する。

語 → 句 → 節 → 文

ネガティブ → ポジティブ

助け舟を出す

単語

でき → 出来上がり

平坦 → 平ら

引ける（**自動**）①（「退ける」とも書く）仕事・課業・店などがしまいになる。「会社が一・ける」② 気後れがする。引け目を感じる。「気が一・ける」③ 見劣りがする。貧相である。

引く（**自動**）：① 後ろにさがる。退却する。また、やり始めたことを途中でやめる。《**引・退**》

「進むことも一・くこともできない」② 長く続いた勤めをやめる。引退する。《**引・退**》「今度の公演を最後に舞台から一・くことになった」③ 勤めなどを休む。④ 十分な程度にあったものがなくなる。《**引・退**》 ↔ **出る**。「潮が一・く」「やっと熱が一・いた」「腫れが一・く」

文型

1. こと

(終助詞)

- ① 断定を表す語に付いて、それをやや柔らげて表現する。「ことよ」の形で使われる。「女の子をぶったりして、男らしくないーよ」
- ② 軽い感動の意を表す。「ね」を伴うことが多い。「あら、きれいに咲いたー」
- ③ 軽い問いかけを表す。「みなさんお変わりないー」
- ④ 同意を求める気持ちを表す。「山に行くなんて、すてきじゃないー」
- ⑤ やや柔らげた形での勧誘を表す。「みんなで後援会でも作りませんー」
- ⑥ (かなり厳しく、また固い口調で) 命令の意を表す。「講堂では、タバコを吸わないー」

文型

(形式名詞)

- ① 生じた事柄。出来事。事態。事件。「どんなーが起こっても驚くな」物事の状態や経過。事情。わけ。「ーを分けて説明する」
- ② 用言（あるいはそれに助動詞の付いたもの）の連体形を受けて、それを体言化し、用言の表す作用・状態を体言的な概念に変える。「英語を話すーができる」
- ③ 形容詞の連体形に付いて、副詞化する。「長いー留守にする」
- ④ 動詞の連用形，名詞・形容動詞の語幹などに付いて、その行為・状態を表す。多く「ごと」の形で用いる。「祝いー」「考えー」
- ⑤ 上に修飾語を伴ってどんな事柄であるかが限定される。ある物事に関連する事柄。「自分のー」

文型

は自分でしなさい」「試験の―を話す」ある人物が動作・心情の対象であることを示す。「私の―をほめてくれた」（「...のことをいう」「...のことだ」などの形で）言葉が何かをさしていることを示す。「今の話の某氏というのは遠藤さんの―だ」行為。仕業。「自分のした―を反省しなさい」言葉の内容。言葉の意味。「彼の言った―を聞いたか」

2. ～に・～で

ニ：動作・作用の起こる原因やきっかけを表す。「山登り―夢中になる」「恐ろしさ―ふるえ」「やぶ蚊―苦しむ」

デ：原因・理由・動機を表す。「火事―一文なしになる」「撃たれた傷―死ぬ」

「デ・ニ」の入れ替えが可能な場合もあれば、入れ替えが不可能な場合もある。入れ替えので

文型

きる場合、意味が異なる。

例：癌で・に倒れる。

事故デ・ニ入院する。

雨に・で濡れて

精読

1. 作者は、人間の心に芽生えた小さなことを、どう見ているのか。
2. 絵本に関するフォーラムの司会者は、子供の本がどのようなものであるべきだと考えているのか。その考え方について、あなたはどのように見ているのか。
3. 作者『フランダースの犬』を五十年ぶりに読み直して、何に気づいたのか。
4. 作者は、日本の高度経済成長期以降の歴史をどのようなものだと思っているのか。
5. 生と死について、あなたはどのように考えているのか。